

平成25年度は、当協議会設立9年目、NPO法人化して7年目であった。

1 地域ぐるみ耐震補強と家具固定活動

耐震補強は2件で、平成24年度（7件）を下回った（累計140件）。

低迷した理由は次にあると思われる。

- (1) 東日本大震災で一時高まった防災への関心（耐震工事も増加）が薄らいだこと
- (2) 「地震は明日は起きない。自分は大丈夫だ」という根拠のない楽観論があること
- (3) 診断法の変化により、耐震費用が簡単には手が出せないほど高額になったこと
- (4) 条件のある世帯に対しても、我々の活動が十分に伝わっていないこと

しかし、これだけ困難な状況の中で2件の工事が実施できたことは貴重な成果であり、悲観せず、できることをしっかりやり、自ら状況を切り開いていかなければならない。

家具固定については、当会が参加する「災害から未来を守る会」が、平成23年度に引き続きひらつか市民活動ファンドの助成を受けて実施した（28世帯に実施）。

- (1) 本格的な家具固定（建築のプロ＝工務店が実施）マンション3所、10世帯、34か所

今回、ビス留めが難しい集合住宅からの希望が多かったため、天井と家具の間にボックスをはめ込む手法が多く採用された。収納スペースが増えるので、施主からは大変喜ばれたが、箱の制作など事前準備が大変であるなどの難しさもあった。

- (2) 篠原進氏（東京いのちのポータルサイト）による家具固定（18世帯に実施）

家具固定で日本耐震グランプリを受賞された篠原進氏が約10日間、平塚にかかりきりになり、18世帯に家具固定を実施し、施主からは大変喜ばれた。篠原氏の助力が得られたことから、発泡スチロールによる簡易な家具固定は実施しなかった。

- (3) 自治会等への家具固定講習会の実施

①龍城が丘自治会などに呼びかけて講習会を実施した（30人）。②ひらつな祭で起震車での家具転倒実験を行った。③家具固定に際し、マンション住民に呼びかけて自分たちで実施する現場講習を行った。防災委員を中心に、家具固定に取り組む機運が生じたことは特筆に値する。

2 地元の防災イベント活動

- (1) 防災・家具固定講演会

寒川町大曲自治会防災講演会（9月21日 大曲自治会館 参加者60名）

第3回なぎさふれ愛まつり（11月17・18日、南部福祉会館 相談会 参加者300名）

- (2) 第3回 ひらつな祭（3月9日、平塚大門通り、八幡神社など）

初めて大門通りで実施することとし、10回の実行委員会を開催して準備を進めた。当日は、30を超す団体・お店が参加して市民5000人が集まり、大成功した。

3 そのほかの活動と全国連携の進展

- (1) 関東大震災90周年・首都防災ウィーク（9月1日～8日、横網町公園（旧陸軍被服廠跡））

当協議会が呼びかけて実行委員会を結成し、関東大震災で3万8千人が焼死した横網町公園（旧陸軍被服廠跡）を会場として、8日間に40余のイベントを連続実施した。かつてない広範なグループが参加し、かつてなく多くの新聞報道がなされ、首都防災の機運が大きく盛り上がった。

大雨による防災囲碁634面打ちの中止や岡本博氏（墨田区耐震協）が脳内出血で倒れるなど苦しい事態も起きたが、成果を踏まえ、今後とも発展させていくことが重要である。

- (2) 「第四回・21世紀の朝鮮通信使」（9月28日（金）～30日（日）福山市鞆の浦）

2010年に始めた「21世紀の朝鮮通信使」事業が福山市で定着し、年々発展している。昨年9月の第四回では、前年度に引き続き、地元福山市立大学生や横浜国立大学学生との連携により大きな成果があった。この結果、平成26年度以降の飛躍の条件が整ってきた。

- (3) 「心の唄～共に生きる」コンサート（6月（秦野、こうぼう山の会）、7月（大田区、わかばの会）、11月（品川区、高次脳機能障害者の会）、1月（ソーレ平塚）など）

昨年度は、文化部会によるコンサート活動が、遷延性障害（重度後遺障害）や高次脳機能障害、身体障害、知的障害を持つ人々などと連携して行われ、強い共感と感謝が寄せられた。地震であれ事故や病気であれ、人々が直面する苦難に変わりはなく、引き続き、こうした活動を発展させていく。